

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200238		
法人名	医療法人社団明佑会		
事業所名	グループホームひかり		
所在地	熊本県八代市渡町1717番地		
自己評価作成日	令和6年2月5日	評価結果市町村受理日	令和6年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和6年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年1月、同敷地内に法人本体である峯苦医院が開院し、365日医師、看護師が常駐しております。利用者様の体調面に変化が生じた場合は、迅速に報告を行い、指示を受け情報を共有し医療連携を行っています。ご家族様にも来所時や電話で体調、生活の様子の報告を行い信頼関係の構築に繋がっています。又、利用者様と一緒にアクティビティ活動としてラジオ体操、ストレッチ体操、ゲーム、レクリエーションを行ったり、季節ごとの行事、壁紙製作等も行い季節感を感じて頂いています。秋の八代花火大会は見学を行い、八代妙見祭前日には飾り馬、ガメの来所もあり楽しんでいただきました。共用のに認知デイも実施しており、地域の方や知人との交流を行い、馴染みの関係性を築きスムーズに入居へと繋がったケースもあります。今後も地域の皆さまやご家族様、利用者様により添ったケアを実践していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設当初から変わらぬ管理者、ケアマネジャーのリーダーシップにより、入居者や家族、地域に寄り添った運営が実践されている。長年地域医療に貢献してきた法人本体医療機関が、同敷地内に開院したことで、365日医師、看護師の常駐が更に家族や職員にとっても安心するところとなっている。介護職員不足が大きな問題となっている昨今、当ホームのゆとりのある人員配置は、職員自身に無理がなく優しい介護に繋がっており、入居者に様々な活動を支援できている。数名の方の看取り支援が行われており、職員は入居者を「一人にしない」という考えのもと入室してはいつも誰かが声掛けをするなど心の通ったケアを心掛けている。自然豊かな地で、地域や家族、職員が差し入れた野菜や珍しい食材は入居者や職員の手で保存食や日々の食事に提供され、自分の家に居るような生活を楽しまれており、今後も変わらぬ支援が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの玄関フロアに法人理念を掲示し共有している。朝のミーティング時に唱和し意識付けを行い利用者様、来客、訪問者には笑顔で対応するよう心がけている。	開設時からの理念を年度初めに見直しを行い、新しい理念を「あなたの笑顔のために」としている。誰もが目に付く所に掲示し、ミーティングで唱和して入居者や家族、地域の人々に笑顔で接することをホームの指針としている。この数年退職者はなく、新たな入職者を含め、配置基準を上回る人員体制が職員の中にもゆとりをもってケアにあたる事が出来ている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年夏頃より徐々に面会を緩和、運営推進会議に出席して頂き通常に戻りつつある。2回/月の資源回収には選別の手伝いに行き地域との繋がりを保ち隣のコンビニは買い物やキャンペーンの案内に協力している。ウッドデッキ前の花壇はボランティアの方に作業して頂いている。取引先の米屋よりブロッコリー、キャベツ、じゃがいもを頂いた。	当初から近隣の小売店との交流は続いており、市の資源回収の選別ボランティアには管理者が参加して地域の人々と会話する機会を持っている。共用デイの併設がグループホームの入居に繋がったり、法人の機能を活かし、理学療法士が「いきいきサロン」で体操の支援を行う等、地域福祉に貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響で支援は限定されたが、家族への連絡、ホーム見学者、入居申し込み等の訪問の方にはアドバイスをを行った。認知症対応型共同生活介護とはどういう所かとの説明を行った。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年度はコロナ禍の為開催できなかったが、本年度より開催し、地域の方との交流する事が出来、ホームでの報告が出来た。毎回事例を出して委員の方より、意見、アドバイス、ケアの様子等を紹介している。	本年度より直接開催となったことで、ホーム運営に直結する地域情報や意見、時には家族が体験談を話されている。入居者の現状や事故、身体拘束への取組や研修内容を報告し、管理者、ケアマネジャーとともに職員も交代で同席しており、新人職員の紹介なども行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2か月に一度の運営推進会議を開催し、担当者との情報共有に取り組み協力関係を築いている。本年度は運営指導を通して運営規定、重要事項説明書等の内容、文章の校正についてアドバイスを頂き、参考にして改訂した。	運営推進会議では行政より介護保険報酬についての説明や、包括からの地域高齢者の状況及びホームからの質問に対して見守りセンサーの利用目的等について話をされている。行政の運営指導で得られた指摘事項には早急に対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束の研修を行い再認識する機会を持てるようにしている。不適切ケアについてはミーティングの議題にして、話し合えるような職員間の関係性を保ちケア向上を目指している。	職員は身体拘束の研修を通じて拘束を行わないケアを更に認識し、虐待に関する最新情報について、全職員がリモート研修にて内容を共有している。八代郡市のグループホーム連絡協議会の一員として研修等にも参加している。入居者とゆっくり関わる事で外出傾向や不穏になられる場面も少なく、職員体制の充実が安定した状況をもたらしている。	身体拘束については“指針”を玄関などに掲示して、ホームの姿勢を発信されることが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本年度はリモート研修に参加し職員間で共有した。特に身体的、心理的、性的虐待には気をつけ、利用者様の尊厳を優先に対応するようしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年度はリモート研修に参加し職員間で共有を行った。現在家族には制度を活用する対象者はいないが相談があった時には支援したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、不安な事、疑問点があれば、安心、納得されるまで十分な説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見、要望を聞いている。状態変化時には、電話にて連絡し状態報告を行っている。運営推進会議に参加されている家族には必ず意見を聞き反映する場としている。	家族の意見や要望は面会時や運営推進会議で収集し、職員間で共有している。現在面会は玄関内で対応しているが、家族の中には「居室を見てみたい」と望まれており、居室の外から窓越しに確認されている。入居者の要望は普通の会話の中から聞き取り、排泄用品の変更時にも入居者に説明して思いを確認するようにしている。	今後玄関内での面会が続くようであれば、椅子やテーブルを設置することでゆっくり会話する事が出来ると思われる。感染症の状況をみながら居室での面会が待たれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的面談(年2回)やミーティング時に改善点や意見を十分に聞いている。各職員、年度目標を決めてそれに対して中間報告、年度末報告の面談、自身の考え、要望を聞くようにしている。	職員は朝夕の申し送りでケアや業務改善について意見や提案をしている。各自が年間目標を立てており、半期ごとに評価するとともに管理者は面談で意見や要望を十分聞くようにしている。車いすの定期的な掃除は入居者に気持ちよく使ってもらおうとの職員の提案からであり、保健衛生上の観点からだけではなく尊厳にも繋がるものと思われる。	車椅子の掃除はせつかく職員意見からスタートした取組であり、個別記録に残すことを検討願いたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	急な休みの相談も勤務変更で対応し、希望休も作成前に確認しシフトを作っている。コロナ禍でも退職者が出ずに乗り切る事が出来た。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リモート研修、月一回のグループホームの研修会に参加した。参加できる人数が限定した為、全職員参加が出来るようにしたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会への参加人数の制限はあったが、八代ブロック会研修会へ参加を行い、他事業所の方と意見交換や交流する事ができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	積極的に声掛けし会話の中から希望や要望、これまでの生活習慣などを聞き出しながら遠慮なく希望を話せる環境作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族の思いを傾聴し、ホームでどのようなサービスの提供が必要なのか、出来るかを一緒に話しあった。入居者様に変化があればすぐに報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	モニタリングを充分に行い、ご家族、本人の意向に沿った必要と思われるサービスを提案し、また他のサービスについても提案を行った。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日アクティビティ活動を行いゲーム等一週間を通して体力維持を行っている。本人が出来る家事動作(食器拭き、盆拭き、洗濯物畳み)と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	少しずつ新型コロナウイルス感染症が治まり家族様との面会の機会が増えている。家族様には面会に来られるように伝え、生活の様子、笑顔が見られた場面などを報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年末年始は多数の面会があった。時々地域の神社、公園、馴染みの場所等へドライブへ行っている。認知デイの利用者様と幼なじみの方もおられ会話を楽しまれている。	入居者にとって馴染みのおやつを手作りしたり、干し柿や梅干し、竹の子の皮むきなどの保存食作りには出番とばかり腕を振るわれている。テラスに出て歌詞カードを手に好きな歌を口ずさまれることも日々の光景となっており、誕生日の挨拶を自身の役目とされたり、書道の作品を自室に飾られるなど、その人なりの暮らし方を尊重している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	コミュニケーションの輪の中で職員が会話の 橋渡を行い雰囲気作りを行っている。生年 月日、年齢、出身地等の話しをすると、皆さ ん興味を示され会話が弾んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医院へ入院された方がおり、面会へ行っ ている。ご家族様にも声をかけて容態を聞い ている。退所時には衣類、衣装ケース等を 寄贈して頂いた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	本人が何をしたいのか意向を確認し出来る だけ、希望に沿うケアを行っている。困難な 方は表情を見ながら対応し本人様が心地よ いケアを行うようにしている。	職員は一日の中で入居者とゆっくり関わる時 間があり、そばに腰を下ろして思いを引き出 すようにしている。表現が困難な方にはこれ までの生活ぶりや家族の意向から判断し、入 居者の思いに添うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	ご家族や本人に昔の生活の話を聞き、本人 様が興味があるような事でホームで出 来るような事(干し柿、団子作り等)を本人様 と一緒にやっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	一日2回の朝夕のバイタルチェックや食事、 水分、排泄の記録を行い又、朝・夕のミー ティングで情報共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	入居者様の担当を決めている。面会の際に は生活の様子を伝えご家族の意見を聞き、 職員皆で話し合い課題を共有している。ケ アを統一出来るようにモニタリングを行い、 計画を作成する事で、よりよく生活できる チームアプローチを実践している。	入居者を職員の担当制としており、普段から 現状を確認し共有するとともに、気づいた点 を申し送りやカンファレンスで提案している。 ケアマネジャーを中心に評価にも全員が関 わり、ケアの統一と意識向上を図っている。 入居間もない方のプランには本人・家族の率 直な思いが載せられ、身体機能を維持しなが ら他者との交流により生活意欲の活性化を 図る内容を掲げ、食や洗濯への関わりを生 活の中に取り込んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットを活用し他事業所との情報共有や個別の記録とそれを踏まえた朝・夕のミーティングで情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他事業所での交流は出来なかったが、火曜日はPTによる機能訓練、可動域訓練、マッサージ、月曜日～金曜は午前午後アクティビティ、ゲームを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は地域との交流は少なかったが、マスク使用し感染対策を行いながら、散歩や近くのキャンプ場や花見や遥拝神社へ初詣外出を行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間毎の定期受診を行っている。受診時には主治医へ利用者様の心身の状態を伝え、日々の様子が反映しやすいようにしている。義歯の調整、歯科治療は訪問歯科を利用、眼科受診も家族同伴で行っている。	隣接する母体医療機関をかかりつけ医とし、2週間ごとの訪問診療を支援し、何かあれば家族への報告が行われている。専門医(眼科など)については、家族による受診が行われている。歯科は治療や不具合があれば訪問診療により対応し、口腔内洗浄が希望者に行われている。ホームでも日頃から口腔内の清潔に力を入れており、起床、就寝時、毎食後など基本5回の歯磨きを支援している。健康管理の一つとして体重測定を月1回実施しており、翌受診時に医師へ報告されている。	昨年1月、同敷地内に法人本体病院が開設し、365日医師や看護師が常駐していることは、更に家族や職員にとっても安心するところとなっている。今後も医療機関と連携を図りながら、入居者の日々の健康を支えていかれる事が期待される。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化があった場合は状態を報告し、必要な指示を受け対応している。又、対応後の状態を報告し利用者様の情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の時は医療機関と密に情報交換を行い、利用者様の状態把握に努めている。本年度は2名の入退院があったが定期的な連絡を行い情報を共有した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医からご家族様への病状説明時には同席し今後のケア方針を共有した。今年度は骨折入院によるADLが低下した方の支援を職員で話し合い取り組み実践している。入居時に重度化した場合のケアの同意書、ACPの事前指示書を記入して頂いている。	入居時に看取りの指針をもとにホームの方針を伝え、意向を書面で確認している。身体状況の変化が見られた時点で、医師による説明と方向性が話し合われている。この2年間で4名の方の最終を支援した際は、医師や訪問看護師との連携を図りながら、居室で過ごされる入居者に細やかに職員が声掛けや見守りに努め、「一人ではないですよ！皆がいますよ！」という想いが伝わるよう心掛け支援にあたっている。支援後は本人を偲びながら朝夕のミーティングの中で意見交換の機会が持たれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変対応用のフロチャートを作成し迅速な対応が行えるようにしている。入居者発熱時は感染症対策を初期行動として対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策委員会を定期的開催し災害後の反省を踏まえ、法人、部署のBCPを作成中。生活消耗品を確保し、水、食料の備蓄は期限を見ながら都度使用し補充している。自然災害発生時には市の危機管理課へ連絡し避難所情報を収集している。	昨年3月にホームを主に、12月に母体医院を主にした訓練を昼間想定で実施している。災害対策委員会を定期的開催し、先般の豪雨災害の反省を踏まえ、法人、部署のBCPを作成中であり、完成後の職員間での共有が期待される。水や食料の備蓄は期限を確認しながら食事の際に浸かったり補充を行っており、感染症対策用の備品も確保されている。水害時の垂直避難は医院へとなっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアを行う際はさりげない言葉掛けを心がける事でご本人様の気持ちを大切に考え尊厳やプライバシーを保てるように努めている。職員都合の口調になっていないか職員同士が注意する意識を持ち対応している。	チェックリストを活用し、尊厳やプライバシーに配慮した支援について振り返り実践に繋げている。呼称は苗字にさん付けで対応し、同性介助にも応じる事としているが、現在は特に要望される方はおられないようである。また居室へ入る際はその方の部屋としてノックや声掛けを徹底している。ホーム内の清潔に加え、車椅子についても汚れていなくても定期的に掃除をしてはどうかとの職員からの提案があり実践されている。	排泄用品の変更に際しても入居者にわかりやすく話しており布パンツからリハビリパンツへの移行の際に「これは年寄りですとですよ！」と発せられ、思わず周りが笑いに包まれている。入居者のひとことや職員の対応に尊敬の念が窺える。継続した支援が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床、就寝時間などでその日の気分で変わることも本人の意向を伺い決定する様支援している休息時にはソファー席や畳所等場所の選択を促し希望に添えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、体調、気分を優先させるため、入浴変更は希望に合わせて対応している。アクティビティの時間を設けているが参加は柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	病院受診等の外出時は衣類選びを本人と一緒にいき、身だしなみの意識を大切にしている。定期的に散髪を行い、日常的に保湿クリーム、爪切り、髭剃りを行い清潔な生活を保つよう対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	干し柿作りや梅干し作りは利用者様に作り方を聞きながら一緒に行い、又出来上がった物を提供する事で楽しみとなるようにしている。食器の吹き上げ、台拭き等も一緒に行っている。味が薄いとおっしゃる方には薄口しょうゆ、刻んだ漬け物等を提供している。	ご飯と朝食はホームで準備し、昼・夕食は法人厨房で調理されたものを提供している。苦手な食材は厨房に伝え、代替えが準備されている。入居者は台拭きや食器の拭きあげをはじめ、干し柿や梅干し作り、竹の子の皮むきなど入居者の出番が数多く用意されている。梅や竹の子などの食材は家族や職員が持ち寄り、入居者が季節の味を楽しむ事が出来ている。入居者の誕生を祝うケーキは、開設時から職員のアイデアを生かした手作りであり、同じものは2度はないと良いほど毎回工夫されている。	入居者が保存食作りや食材の下準備などへ取り組まれる姿は生き生きとしている。今では珍しくなった川蟹(山太郎蟹)を慣れた手つきで口にされる姿など、今回の訪問でもホームならではの取組が確認された。入居者の笑顔を引き出す支援が継続されていくことを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量が少ない利用者の方へは主治医に指示で栄養補助食品を提供、お菓子を好まれる方にはおやつを多めに提供した。好みに応じて紅茶、生姜湯、レモンティー等も提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床、就寝時、毎食後に必要時には介助を行い口腔ケアを行ってもらっている。希望の方には定期的な訪問歯科を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせ誘導を行っている。訴えがあれば二人対応で介助する事もある。夜間ポータブルトイレを使用する事でオムツ利用者を減らす様支援している。	全員がリハビリパンツやパットを併用されており、必要に応じて声掛け・誘導が行われている。夜間のみオムツやポータブルトイレを使用される方もおられ、使用後はその都度廃棄し居室に臭いがこもらないようにしている。排泄用品はホームで準備しているが、面会を兼ねて家族が購入し持参される方もおられる。ホームではみんなの「トイレ」きれい運動とし、「便座は汚れていませんか」「トイレトペーパーは足りていますか」など8項目を掲げる他、ポータブルトイレの週1回本体ごとの洗浄など環境を整え気持ちよく使用できるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日牛乳、ヤクルト、ヨーグルト乳製品を提供している。又、毎日AM・PMのアクティビティ活動に体操、ゲームを取り入れ自然排泄を促し、看護師や主治医と連携を図り排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調、思いを聞き、気分がのらない時は、次の日などに日程調整をしながら入浴を行った。更衣室と浴室の温度差がないよう、ヒートショックに気をつけ晩白柚風呂や歌と一緒に唄い喜ばれた。拒否がある方には無理に勧めずに、気分表情を見ながら対応している。	体調や希望等を聞きながら一日おきの入浴を基本的に午前中に支援している。拒否やあまり気分が乗らない等の場合は、時間をずらしたり翌日に声を掛けてみるなど調整している。入浴後はスポーツ飲料も取り入れ水分補給が行われている。ホームの脱衣所や浴室の広さ、材質などから冬場は特に冷える事から温度管理に十分配慮している。入浴時には職員が思いや要望などを聞いたり、昔懐かしい歌を歌うなど、一人ひとりに応じて寛げる入浴となるようにしている。また、特産の晩白柚を使った季節湯はホームならではの取組である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の利用者の体調に応じて、体を動かしたり横になり休んで頂いている。不安な時は、対話により不安感をなくし落ち着いた雰囲気休まれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期受診時には心身状態を報告し処方薬の指示を仰いでいる。新しく処方された薬はミーティング時に周知徹底している。薬状は個人別にファイルで管理し確認が容易にできるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、午前、午後にアクティビティの時間を設け、体操、ゲームを行い季節ごとの壁紙製作にも取り組んでいる。梅干し作りや干し柿作りにも参加して頂いた。誕生会には手作りケーキ、お菓子も用意している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防に気をつけながら、ホーム周辺の散歩桜の花見、アジサイ見学、紅葉、初詣と季節を感じられた。昨年の花火大会見学、清流高校前のさくらも見学した。受診の外出時には、介護タクシーを予約して家族様同伴で行けるように手配した。	敷地内にはボランティアの協力により植えられた季節の花苗が咲きほこり、デッキでの外気浴や散歩の機会をより楽しみなものにしている。今年度も感染対策を施し、桜や紫陽花、紅葉見学、初詣、河川敷の花火大会など、季節を感じる外出支援が行われている。また、入居者にとって地元の祭り妙見祭への思いは強く、がめや飾り馬も来訪した際は大変喜ばれたようである。また、家族による受診支援も外出の機会として、介護タクシーの手配を支援している。	今後は感染症の状況をみながら、家族の協力を得た外出も進めたいとしている。取組が期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為、買い物外出は出来なかった。食べたいものや必要な物があれば職員が買い出し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望がある場合、時間帯を確認しながら電話をし手紙が届くと代読、代筆を行っている。季節ごとに手紙が遠方より届く方もおられる。贈答品が送られてきた場合には、代わりにお礼の電話を行った。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて日光浴を行い、お茶、おやつを提供、寒い日はフロアの窓越しに日光浴、日曜日はウッドデッキにて歌を合唱し季節感、風、匂いを感じて頂いてる。定期的に居室のエアコンは清掃を行い、寝具も洗濯を行って窓を開けて風を通し清潔に努めている。夜間帯の照明は不快にならないように最弱の明るさに努めている。	入居者にとって居心地の良い共用空間となるよう、場所や時間帯、季節などに応じた環境整備に努めている。日々の換気や掃除の徹底と、簡単なモップ掛けと扇風機の掃除は入居者も一緒に取り組まれている。玄関先やホーム内にはシュレッダーにかけた広告紙などを活用した飾り物をはじめ、壁面などを季節に応じて製作しており、職員のアイデアが随所に見られる。日中の活動場所はリビングに限らず、ウッドデッキでの合唱は日曜日のイベントの一つになっているようである。	季節に応じた壁面制作には職員のアイデアが活かされ、入居者も一緒に取り組まれている。感染症の状況をみながらホール(会議室)でそれらの作品を家族や地域の方々などに見てもらう機会を企画されることも良いと思われる。取り組みに期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人1人の定位置(落ち着く場所)があり、テレビ鑑賞、気の合った方同士で雑談を楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に面談を行い、心地よく過ごせる様、本人様が使い慣れた物、タンス、椅子等を持って来て頂き設置している。衣替えは職員で行っているが、タオルが硬くなったり、シーツが劣化した場合など面会時に報告し買い替えを依頼している。	入居時の面談で、安心して過ごせる環境となるよう、本人が今まで使っていた馴染みの品の持ち込みについて例をあげながら説明している。中にはテレビを持って来られる方もおられるが部屋ではあまり見られず、リビングの共有テレビを他の入居者と一緒に楽しめるようである。現在もまだ面会は玄関内で行われており、衣替えなどは職員が担当し、衣類の損傷や不足の物などがれば家族へ伝えていく。小まめな寝具の洗濯や日光干し、居室内のエアコンの定期的な掃除など安眠につながっている。また、必要に応じて湯たんぽを準備しゆっくり就寝できるようにしている。	感染症への対応から居室への入室を控えている家族にとって、室内の様子は気になる点と思われる。今後は家族の気になる点や報告して欲しい事などそれぞれの家族に聞きながら対応されることで安心につながると思われる。取組に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内は基本的にバリアフリーである。フロア、浴室、動線には全て手すりを設置しており安心した移動空間作りをしている。動線には物を置かないようにしている。		